

試験研究（事後）評価整理表

試験研究機関名 衛生研究所
所管課(室) 薬務課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	Ⅱ-3-② ライフステージや疾病に応じた保健予防対策の充実	感染症対策	つつが虫病の分子疫学的調査及び迅速診断法の検討	本病は発生地域の把握による「予防」と適切な抗菌薬の投与のための「迅速診断」が重要である。本研究は「予防」と「迅速診断」に係る基礎的な調査・研究を行い、県民及び医療関係者への効果的な情報還元を図ることを目的とする。	1. ツツガムシの分布調査(汚染地域調査) 2. 健康者から採取した血清における抗体価調査 3. 既存のPCRによる遺伝子検出法の習得及びLA MP法による新規高感度遺伝子検出系の開発検討	22	24	A	本県は全国有数のつつが虫病発生地域であり、早期診断につながる迅速な検査体制を整備することが出来たことで、県内医療に大きく貢献できた。 また、今回得られた疫学情報(多様な病原体が分布)は全国的にみても特殊であり、効果的な対策を行ううえで、有用な成果が取得できた。	全国でも有数のツツガムシ病発生県における有意義な研究となっている。健康者血清が地域ごとに採れず抗体保有調査が十分に遂行できなかったものの、迅速な遺伝子検出には意義が大きく、ツツガムシの生息の確認、県初のShimokoshi型病原体検出など、興味深い結果も得られ、注目点の多い成果となっている。(加藤)

試験研究機関名 環境センター
所管課(室) 水・大気環境課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
2	猪苗代湖を始めとする豊かな水環境などの保全	猪苗代湖水質モニタリング調査事業	猪苗代湖水質モニタリング調査事業	猪苗代湖のpH上昇の原因究明及び水質変動のメカニズムを把握することにより、猪苗代湖の水質保全対策に資する。	猪苗代湖及び主要流入河川のイオンバランス調査、酸性河川源流域の水質調査、猪苗代湖内の水温・電気伝導率の連続測定調査を実施した。	H22	H24	B	本調査については、概ね計画どおり実施されている。pH上昇原因の詳細なメカニズム解明には至らなかったものの、猪苗代湖の長期的な変動を観察するための重要なデータであり、継続的なデータの蓄積が必要である。	猪苗代湖の水質の中性化に関して詳細な情報が蓄積された意義は大きい。メカニズムの解明には至らなかった点に関しては、全国の大学等の連携により、様々な視点からの接近を行えば、何らかの知見は得られたかもしれない。ともあれ、経年的に情報が確実に蓄積されている点は、得難い強みとなっているため、この蓄積を生かして今後の研究が続けられるとよいと思う。(加藤)

試験研究機関名 ハイテクプラザ
所管課 産業創出課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
3	廃棄物の発生抑制、再利用、再生利用	産業廃棄物減量化・再資源化技術支援事業	石炭灰の再生利用促進	火力発電所から排出される石炭灰について、表面処理材等の工業材料としての用途開発を行い、石炭灰の再利用を促進する。	プラスチックやショットピーニング材としての利用を想定し、石炭灰の形状やサイズ、噴射量、圧力等を検討するとともに、加工後の製品の表面性状や物性を評価することにより、用途を開発した。	22	24	B	石炭灰をショット材として再利用する技術を確立し、共同研究企業等をとおして実用化検討段階にまで至っており、概ね目的を達成している。	再生石炭灰を用いたプラストおよびショットピーニングのショット材の開発が、先行研究の成果の上に表面加工処理と研磨工程の技術開発として具体的に進められた。ショット材の密度は高くないと思われ、比較的低エネルギーでの施工を必要とする企業の限定的なニーズ開拓を行うことが不可欠である。最適加工条件も提示も含め、提案的な広報を行い技術の利活用を進めてほしい。(小沢)
4	県内企業の経営基盤、競争力・収益力の強化	受託研究事業	有色光重合性含漆共重合精製物を応用した製品開発とその耐久性について	漆塗りを工業製品に展開できる技術を確立し、高付加価値で差別化された製品の創出に繋げることで、会津地域の伝統産業の振興を図る。	プラスチック素地や金属素地への塗装・加飾を目的に、密着性や耐擦傷性等に関する塗装試験や試作等を行い、技術を確立した。	22	24	A	漆塗りを工業製品にも適用できるようにプラスチックや金属素地への塗装方法を開発しており、製品化事例も出ているなど、研究目的を達成している。	漆塗り技術の高度化として、工業技術に展開できるレベルに達し特徴的なものとなっている。金属箔を利用した塗りの工夫と紫外線照射エネルギーの効率化や金属皮膜への応用など実施されていることから、個人利用の趣味的用途や工業製品への適用について市場ニーズを的確に把握して、製品開発・展開を図ってほしい。(小沢)

試験研究（事後）評価整理表

試験研究機関名 農業総合センター(本部)/林業研究センター
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
5	生産力と経営力の強化による自給率向上と所得の向上	自然・環境と共生する農林水産業の推進	地球温暖化対応農業生産システム確立事業	地球温暖化に伴う本県での気象の変動と農業生産への影響を明らかにし、温暖化に対応できる農業生産技術を確立するとともに、農業生産からの温暖化ガス発生抑制技術を開発し、地球温暖化防止と本県農業の持続的発展に資する。	1 地球温暖化に伴う本県での将来の気象変動予測と、本県主要作物生産に及ぼす気象の解析を行い、栽培方法等対策技術の検討を行う。 2 農業生産に伴う温暖化の抑制のために、化石エネルギーを極力使用しない作物栽培技術を確立する。	20	24	B	温暖化が本県の気象変動と主要品目の生育に及ぼす影響について明らかにしており、将来の農業生産性維持に寄与する。温室効果ガス発生抑制のための園芸システムを構築しており、地球温暖化の防止に貢献できる。	バイオマス系の燃料を利用することで、従来手法と比較して大幅な二酸化炭素排出量を削減可能なシステムである。今後は燃料となるバイオマス資材の調達なども加味したLCA評価も加え、より汎用的なシステムに高めてほしい。(信濃)
6	生産力と経営力の強化による自給率と所得の向上	自然・環境と共生する農林水産業の推進	カツラマルカイガラムシの生態と防除	カツラマルカイガラムシの被害から里山の環境を形成しているコナラ、クリ、サクラ等の広葉樹林を保全する。	カツラマルカイガラムシの生態の把握 カツラマルカイガラムシの成虫発生抑制による被害の軽減技術の検討	20	24	B	福島県内におけるカツラマルカイガラムシの生活史や被害分布の把握のほか、天敵の猩紅病菌が野外で自然と蔓延することも確認でき、目的を概ね達成した。	カツラマルカイガラムシは近年東日本において被害の大きな森林害虫であり、とくに福島県においては被害面積が大きいことから研究上の重要度は高い。分布、生態から防除まであらゆる分野に関してバランスよく試験設定されている。詳細な分布調査は、継続していくことで有用なデータとなり得る。猩紅病菌は重要な天敵ではあるが、防除手段としての利用に重点を置いたために、野外での生態に関する知見が少なかった。(浦野)